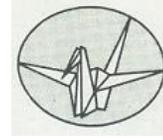




被団協



● 発行所
 北海道被爆者協会
 札幌市白石区平和通
 17 丁目北 6-7
 北海道版 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館内
 TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ [http:// h-nomore-hibakusha.org](http://h-nomore-hibakusha.org) メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

「日本被団協がノーベル平和賞を受賞」 核兵器も戦争もない世界を、ともに ノーモア・ヒバクシャ会館壁面に看板上げる



会長 廣田凱則

皆さん、あの原爆投下から 80 年目の新年を迎えました。お変わりなくお過ごしでしょうか。ノーベル平和賞授賞が、本当は今年と考えていたのが昨今の核兵器をめぐる世界情勢を見て一年早めた、という話も伝わってきています。戦後何度か核兵器使用の危機が高まったときがありますが、その都度国内、国外の人びとの反対の声でそうさせないできました。その中心にいた被爆者はどれほどの精神的な緊張の中にいた事でしょうか。

私は長崎の鳴滝町で被爆しましたが大きな身体的被害はありませんでした。しかし、北海道でも被爆者運動の先頭に立ってきた先輩たちのことを思いだすにつけ、被爆者の 80 年のたたかいは一言では語る事ができないだろうと思っています。私たち「北の被団協」はノーベル平和賞授賞式の 12 月 10 日に、会館

ノーベル賞委員会が授賞理由で「日本被団協をはじめとする被爆者代表たちの並外れた努力は、核のタブーの確立に大きく貢献した。一方で、核兵器の使用に対するこのタブーが今日圧力を受けていることについて憂慮している」と述べていますが、この一文こそ、ノーベル平和賞の理由と背景を余さず語っていると、私には思っています。

お祝いに駆け付けた被爆者二世・関係者



の壁面に「核兵器も戦争もない世界を、ともに」という大きな看板を掲げました。核兵器のない世界の実現は

世界に広がる 核兵器反対の声

核兵器禁止条約は現在 94 か国が署名、73 か国が批准しています。少し足踏みの感があります。しかし、昨年末の国連決議で核兵器禁止条約の賛成国は昨年比 4 カ国増で 127 か国に増えました。国連加盟の 6 割超です。同決議はすべての国に「可能な限り早い時期に」条約に署名し、批准することを求めています。また「核兵器の道徳的な結果」

については 142 か国が、「核兵器のない世界への道徳的な責務」については 137 か国が賛成し、10 年連続で採択されました。非人道兵器である核兵器についての批判の声は確実に広がっています。日本政府が毎年提出している核兵器関連決議も採択されましたが、核兵器禁止条約への支持も参加も表明していません。日本被団協は、受賞を機に今年を「核兵器のない世界」を実現するために、世界に向けて被爆者を派遣し「大証言運動」を展開したいとしています。